

第54回 埼玉県臨床細胞検査士会鏡検セミナー
症例②：泌尿器

症例 ②

年齢 40代

性別 男性

採取方法 前立腺嚢胞内容物の穿刺吸引

検体処理方法 eprexia Cytospin Collection Fluidにて固定後塗抹

現病歴

検診でPSA 435.2ng/ml、前医でPSA 364.3ng/ml

MRIにて前立腺内に嚢胞状構造が発達した腫瘍を認め、
精査目的で当院紹介。

経会陰的穿刺吸引細胞診とTUR-Pでの組織採取を実施。

穿刺液生化学検査はPSA 10000ng/ml以上、LDH 932U/L

既往歴なし。

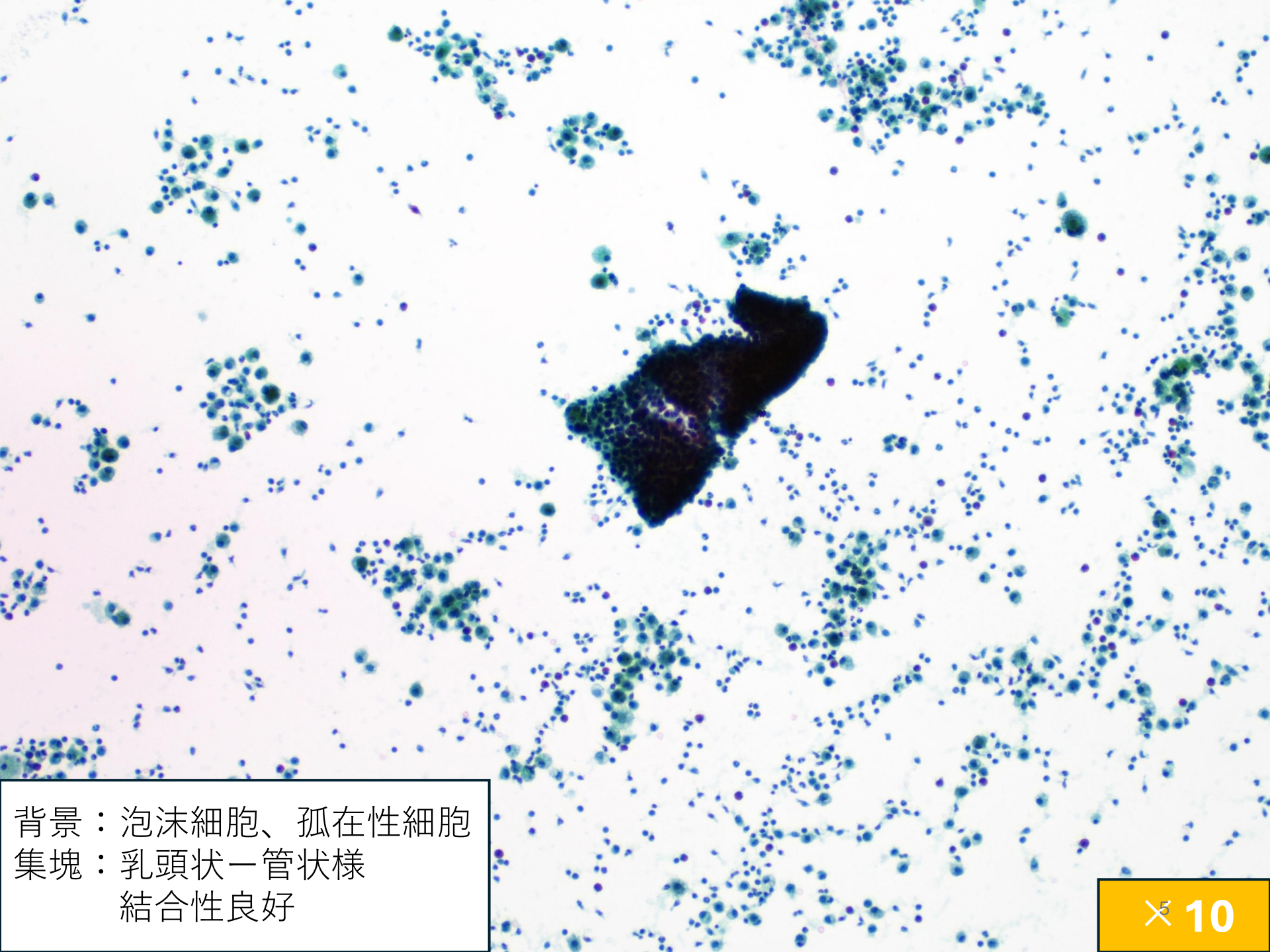
症例② 泌尿器 事前解答

1. 腺房腺癌	4名
2. 導管腺癌	12名
3. 悪性リンパ腫	0名
4. 大腸癌の直接浸潤	0名
5. その他	1名

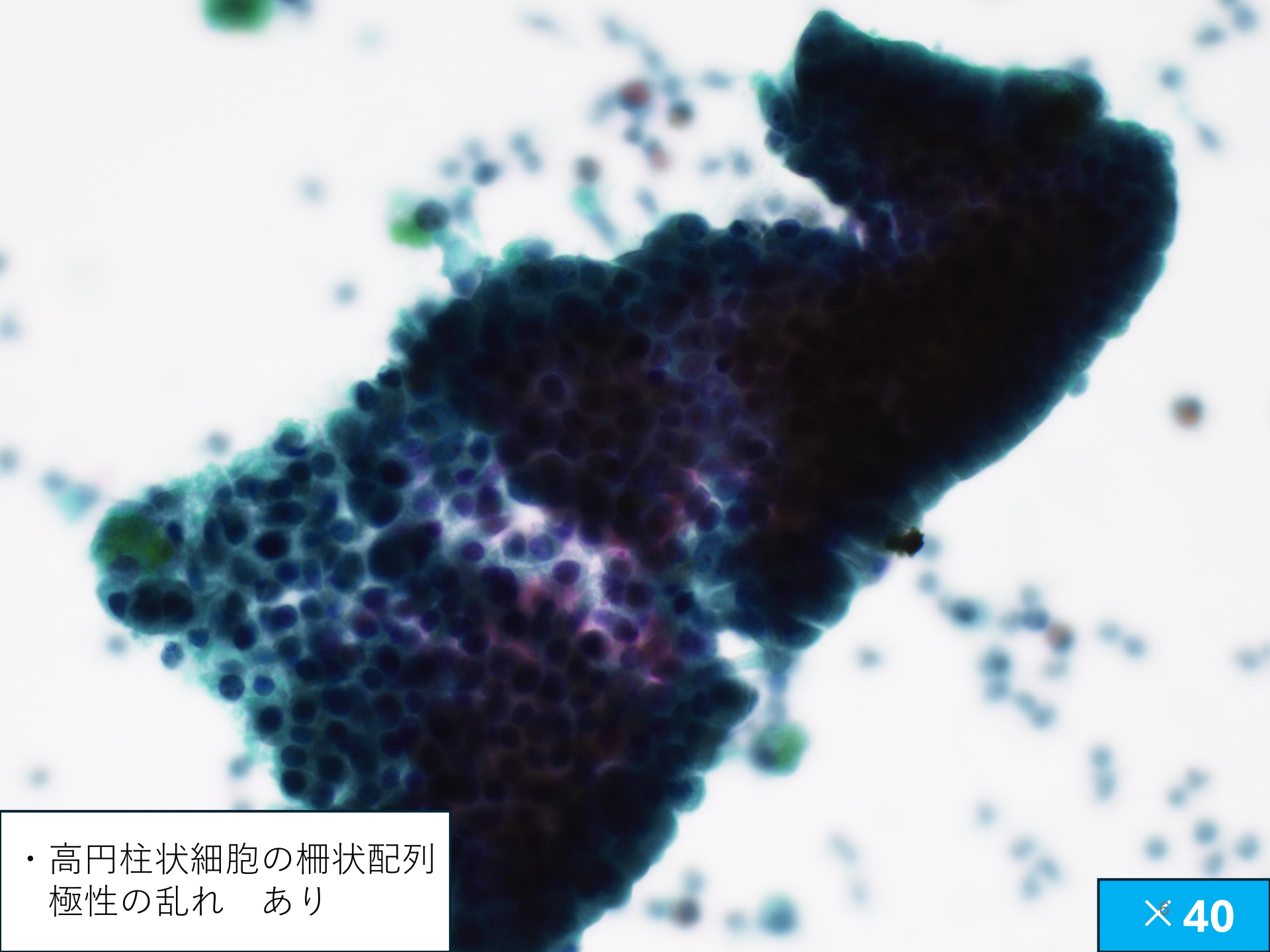
HA



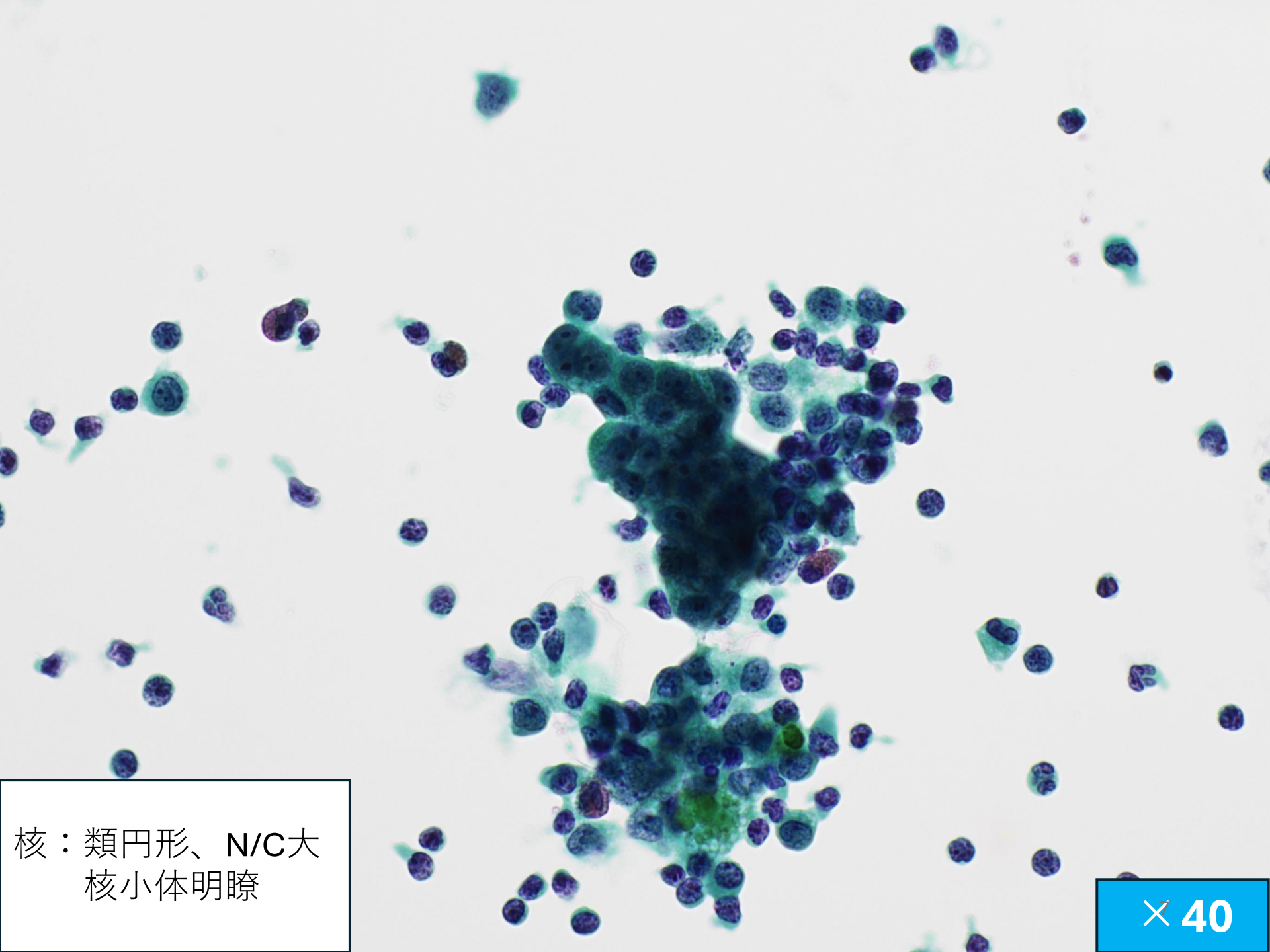
FP



背景：泡沫細胞、孤在性細胞
集塊：乳頭狀—管狀樣
結合性良好

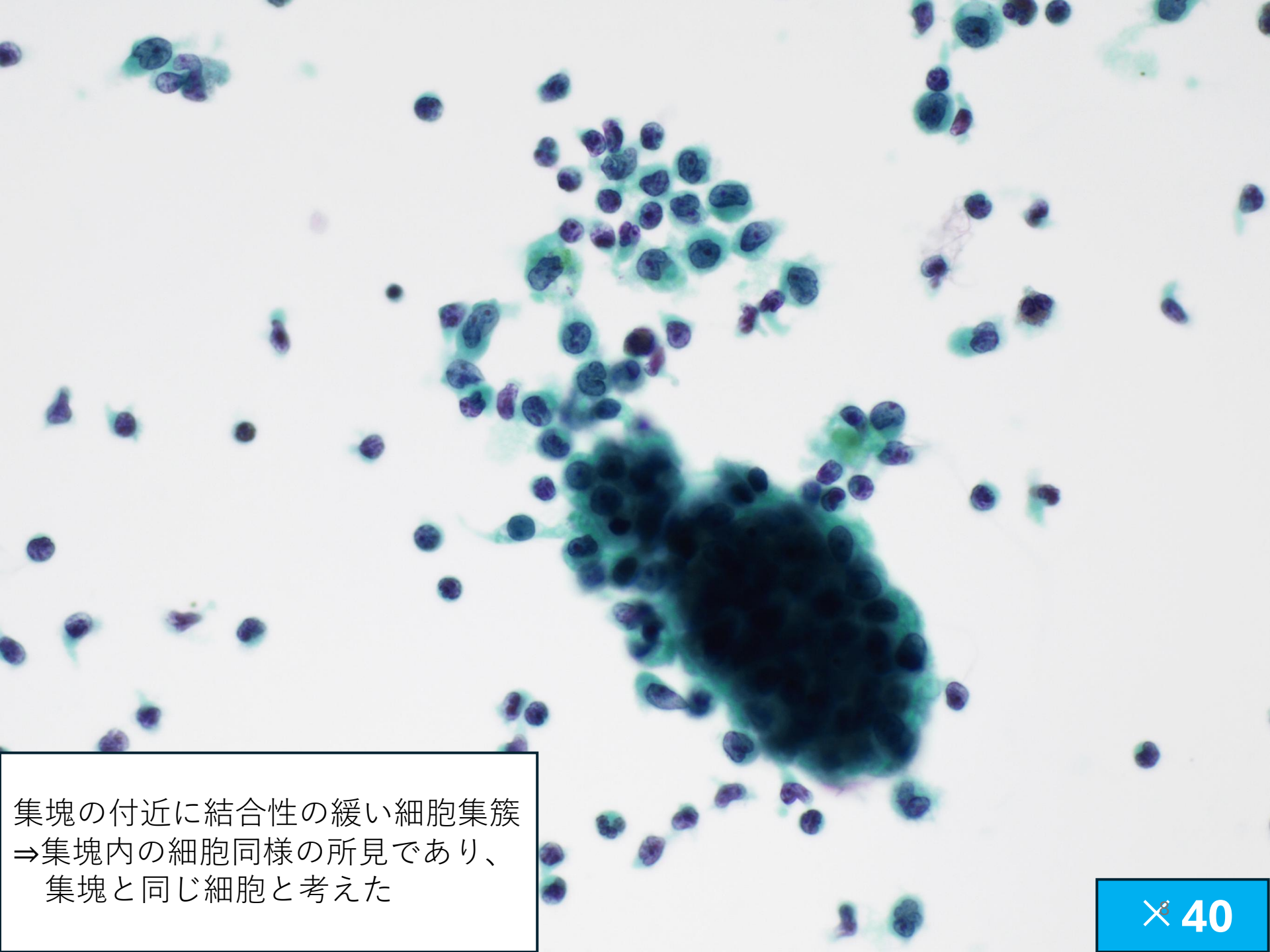


- 高円柱状細胞の柵状配列
極性の乱れ あり

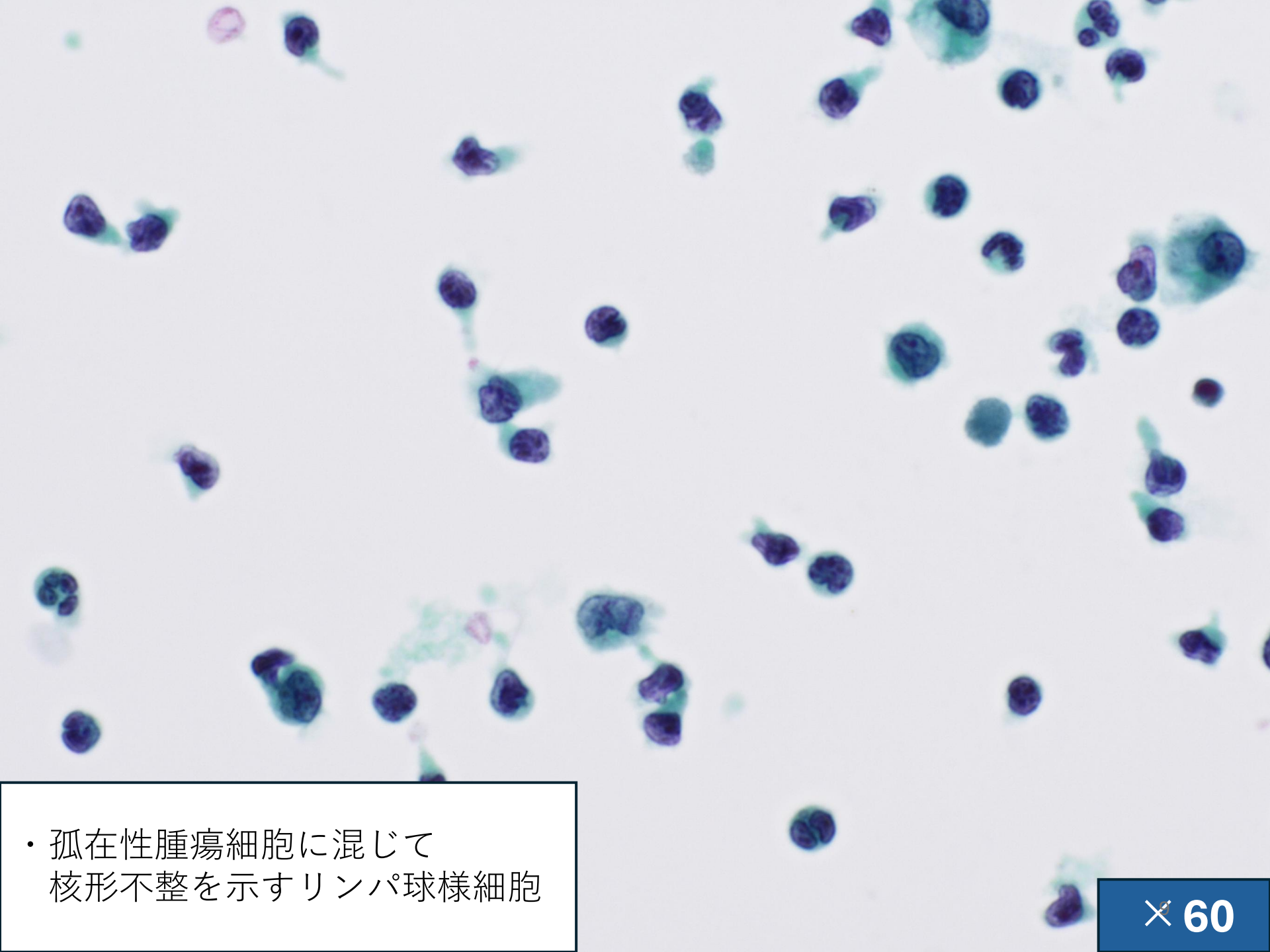
A microscopic image showing a large, central cluster of cells with numerous blue-stained nuclei. The nuclei are generally rounded and vary in size. The cytoplasm of the cells is stained a light greenish-blue. The background is a light, off-white color with scattered individual cells and small groups of cells. The overall appearance is that of a histological section, possibly of a glandular or epithelial tissue.

核：類円形、N/C大
核小体明瞭

× 40



集塊の付近に結合性の緩い細胞集簇
⇒集塊内の細胞同様の所見であり、
集塊と同じ細胞と考えた



- ・ 孤在性腫瘍細胞に混じて核形不整を示すリンパ球様細胞

〈細胞診断〉

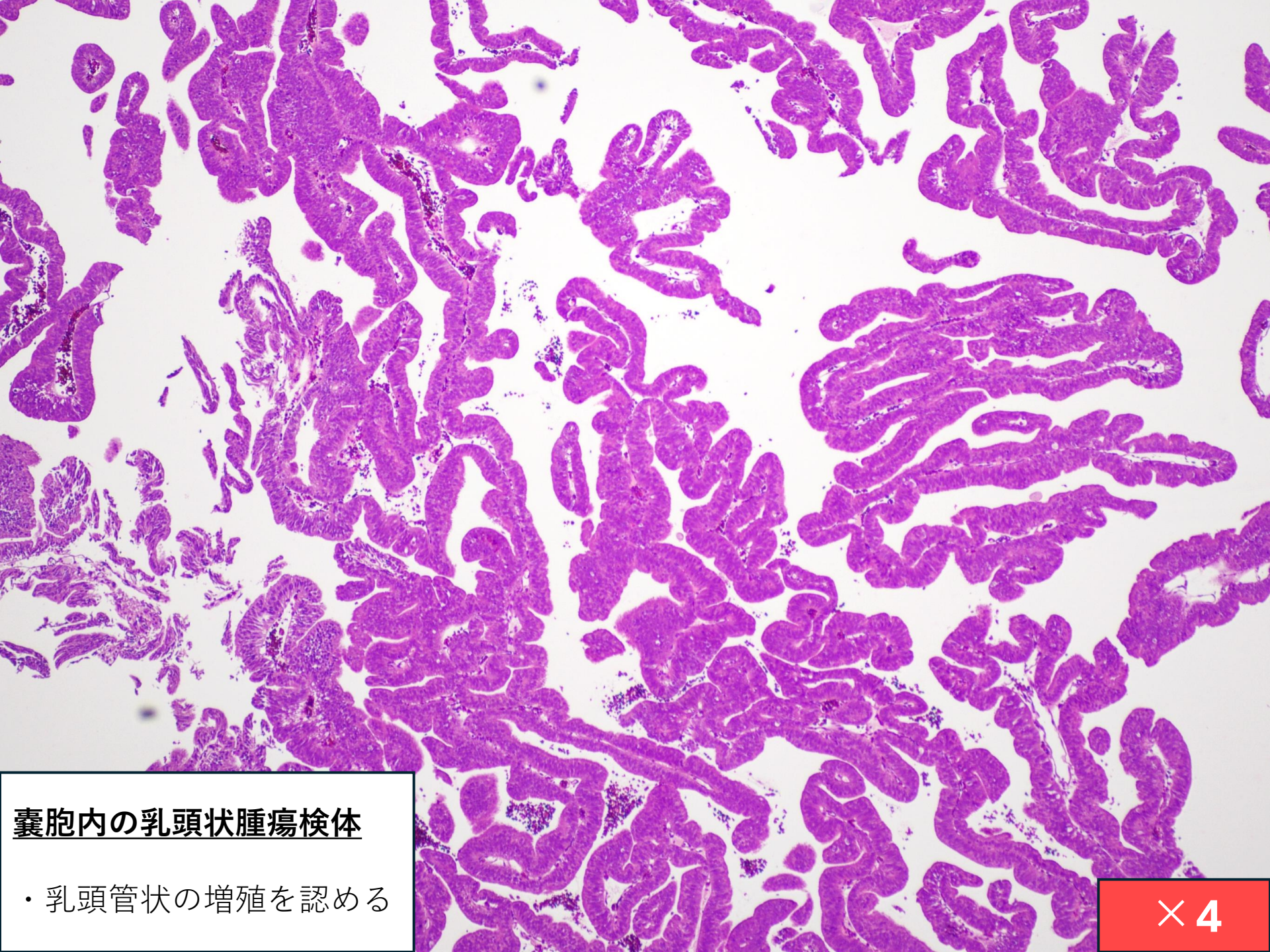
Class V

positive for malignant cells.

〈コメント〉

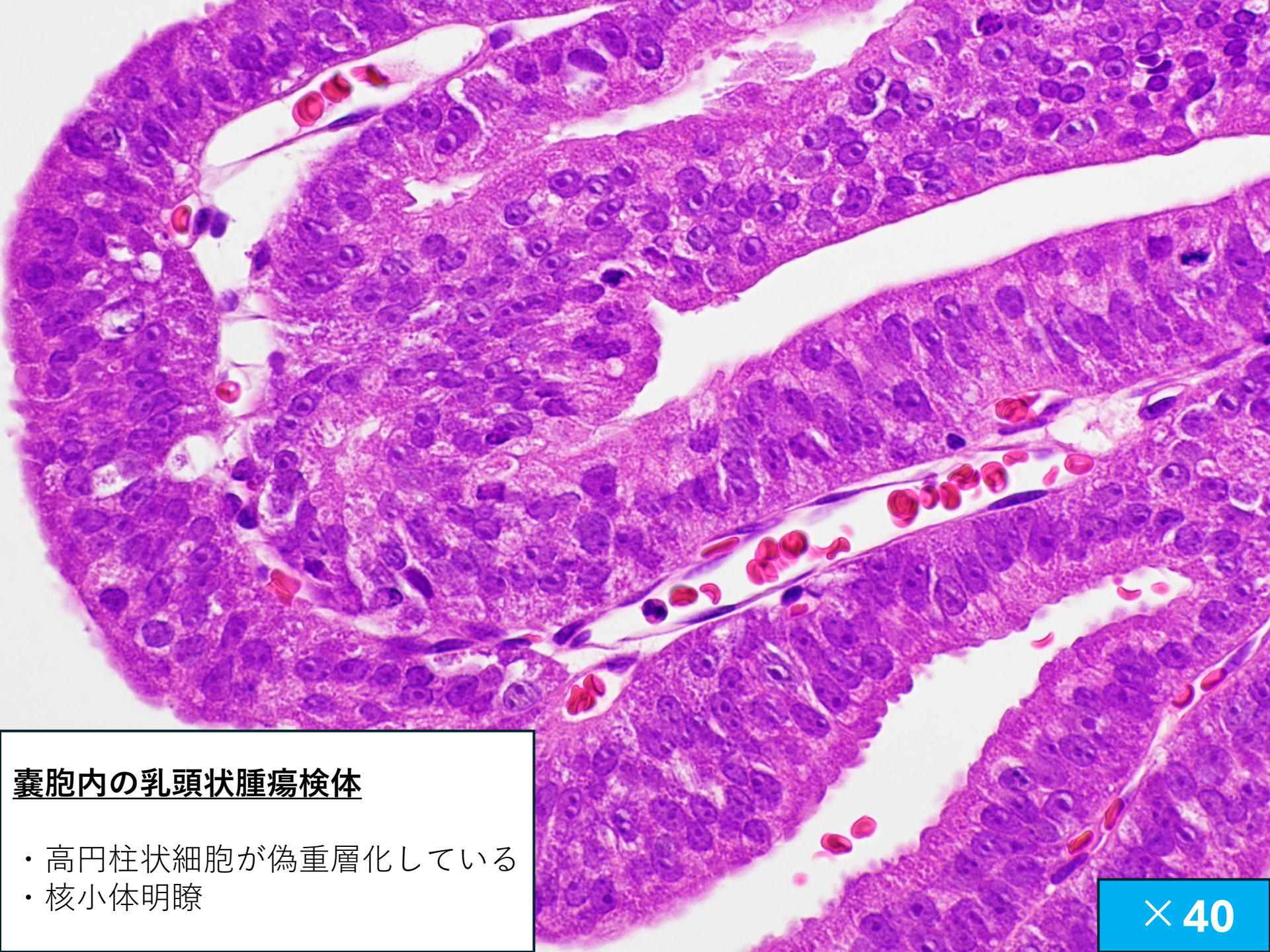
腺癌を推定します。

**リンパ球様の異型細胞を認め、
悪性リンパ腫の可能性を否定しえません。**



囊胞内の乳頭状腫瘍検体

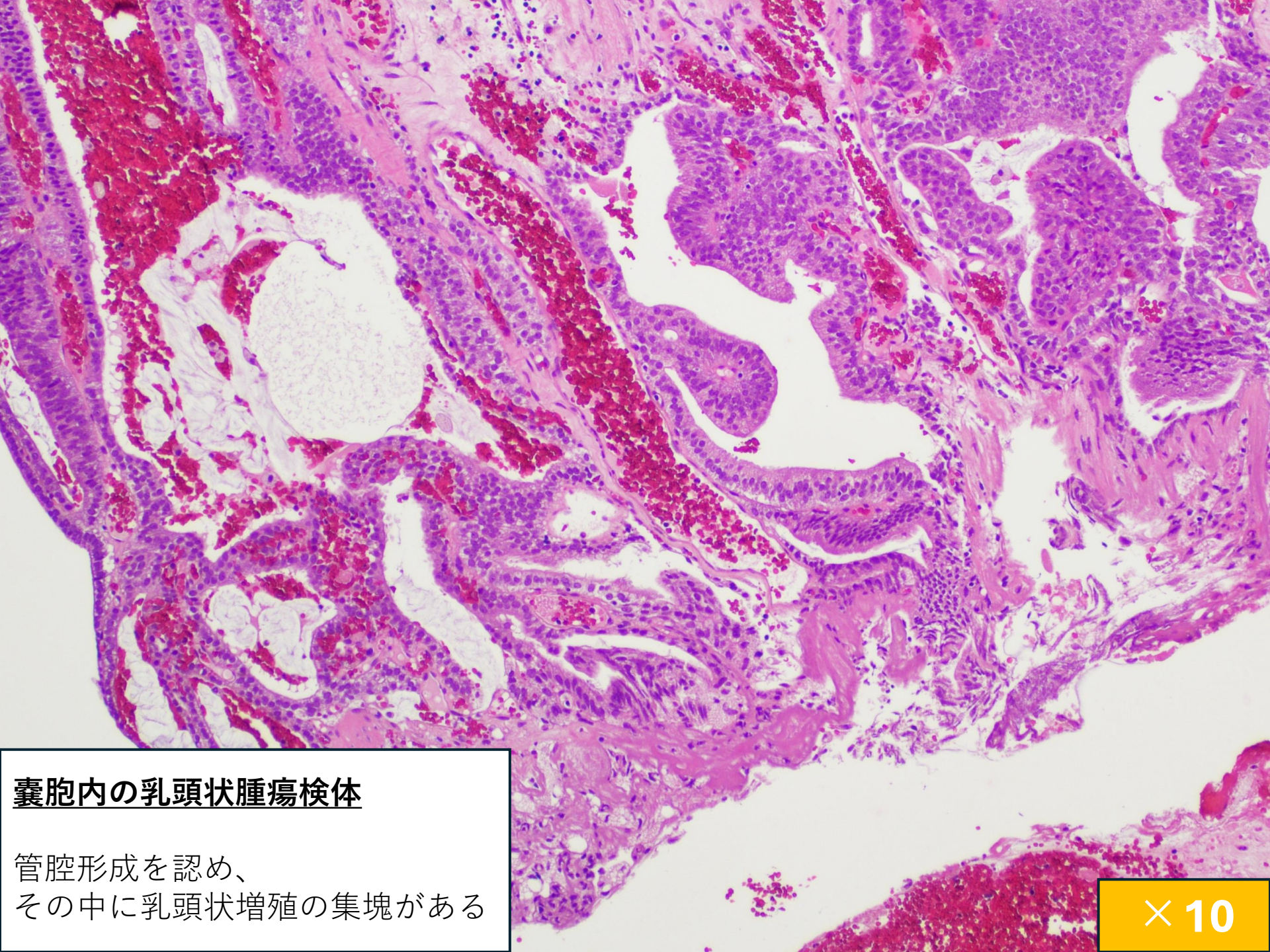
- ・ 乳頭管状の増殖を認める



嚢胞内の乳頭状腫瘍検体

- ・高円柱状細胞が偽重層化している
- ・核小体明瞭

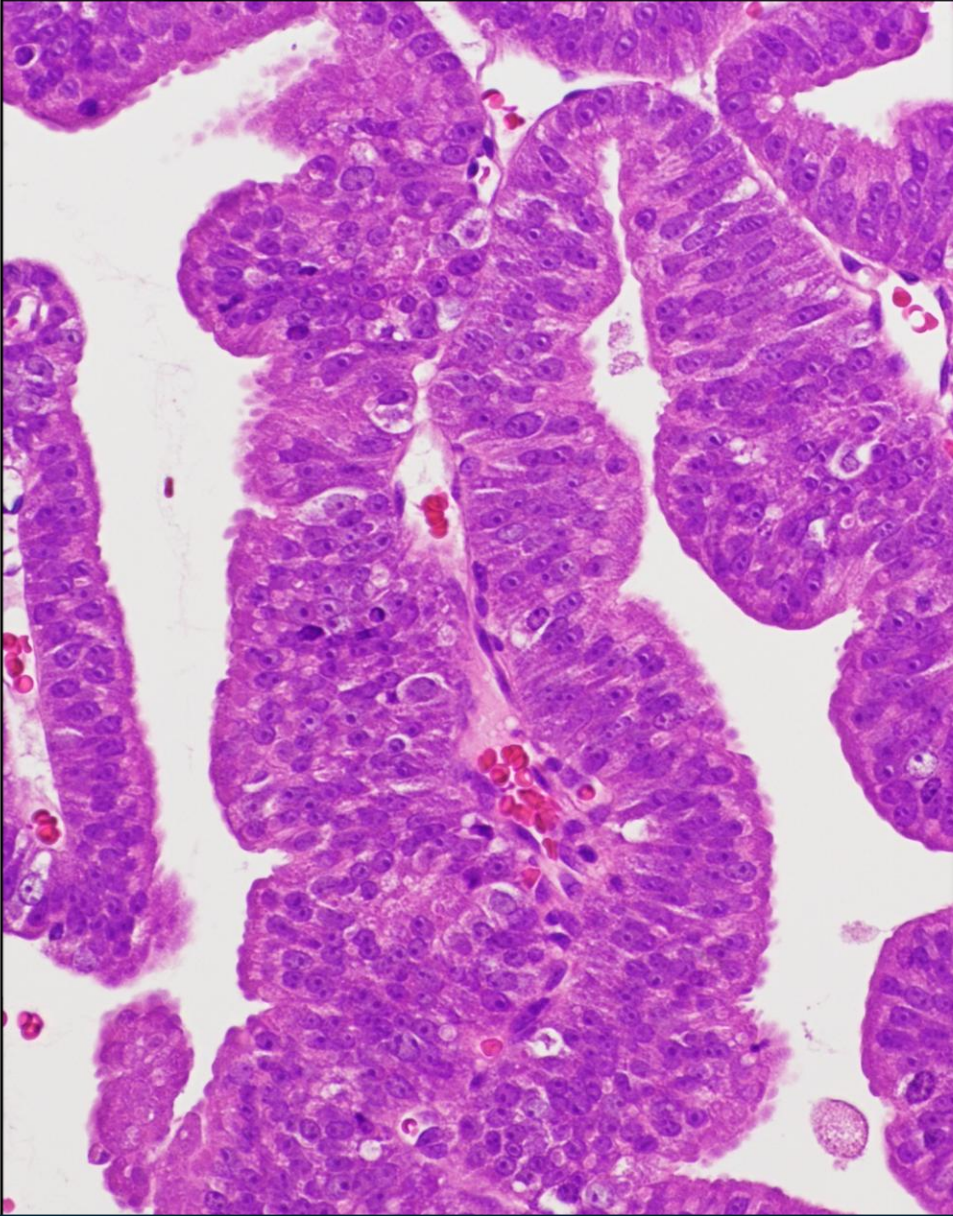
× 40



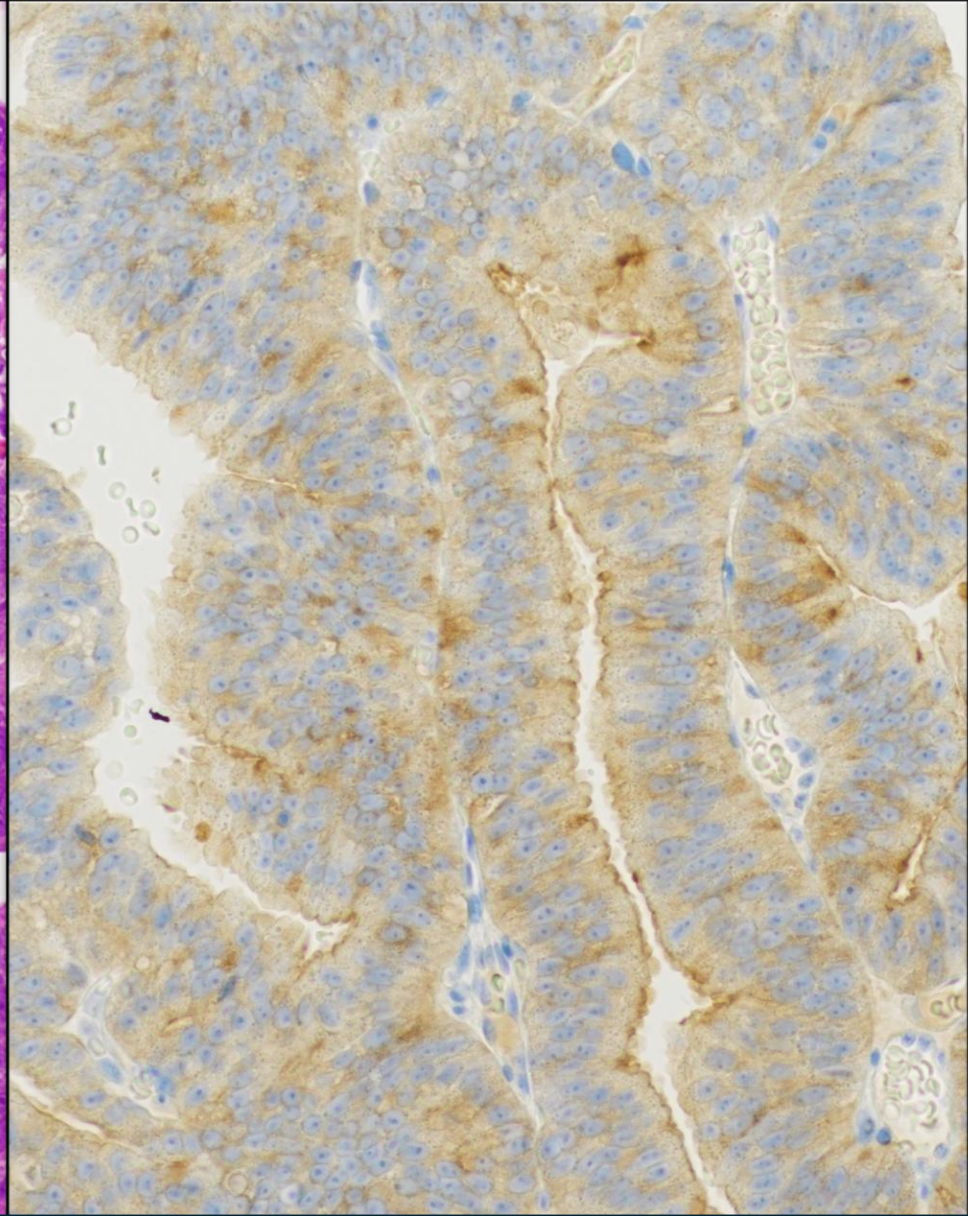
嚢胞内の乳頭状腫瘍検体

管腔形成を認め、
その中に乳頭状増殖の集塊がある

× 10



HE



PSA (陽性)

嚢胞内の乳頭状腫瘍検体 (×40)

〈最終組織診断〉

Ductal adenocarcinoma

Gleason score $4 + 4 = 8$

Grade Group 4

導管腺癌

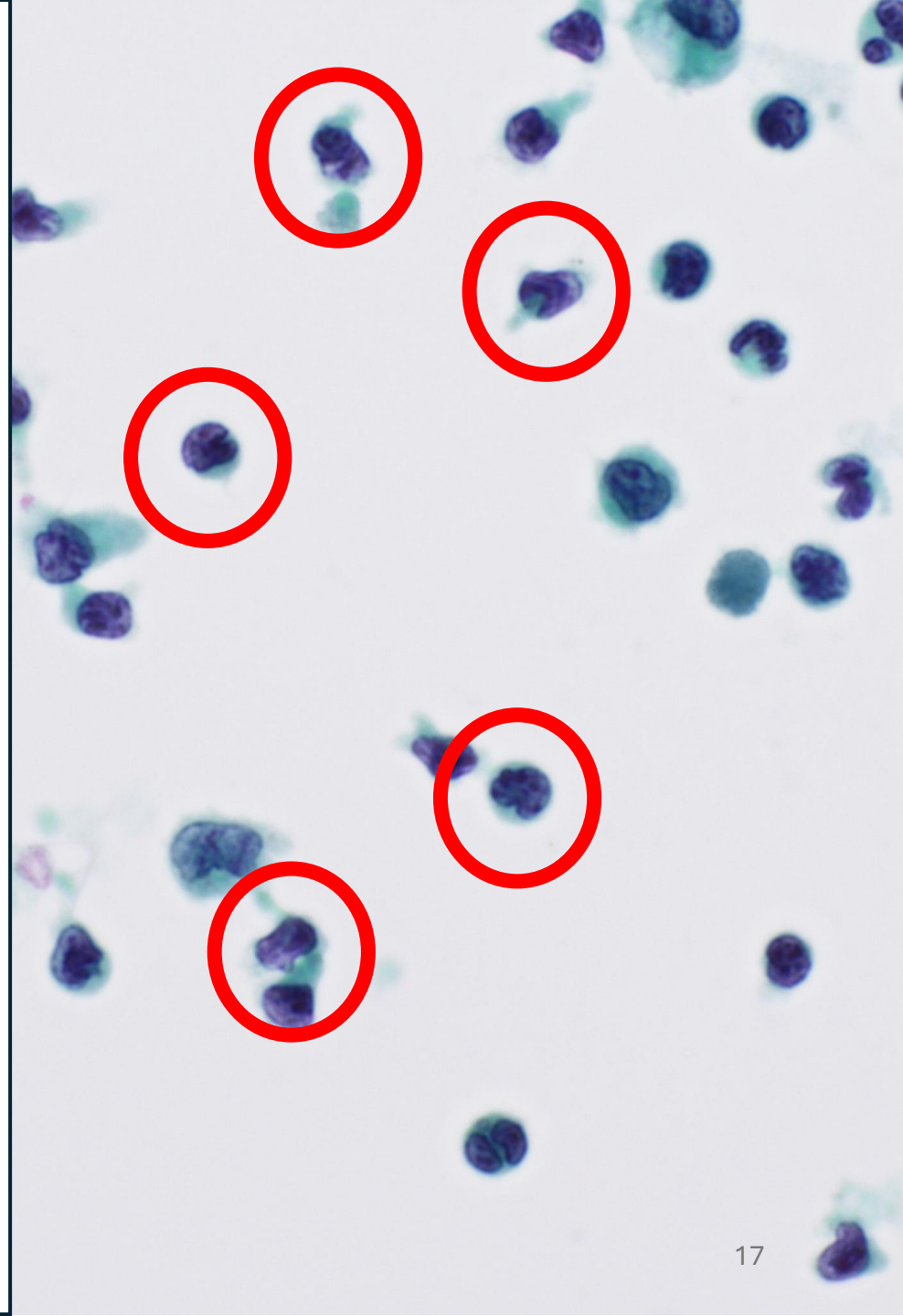
- 前立腺導管由来の癌。
- 前立腺悪性腫瘍の約3%
- 前立腺尿道内に乳頭状に発育することがある。
- 前立腺尿道周囲導管に発生すると画像上、特徴的な所見を示す。
 - ⇒前立腺尿道周囲の嚢胞性病変
- 一般的には腺房腺癌と比較して、PSA上昇が軽度であり、発見時には進行している例がある。

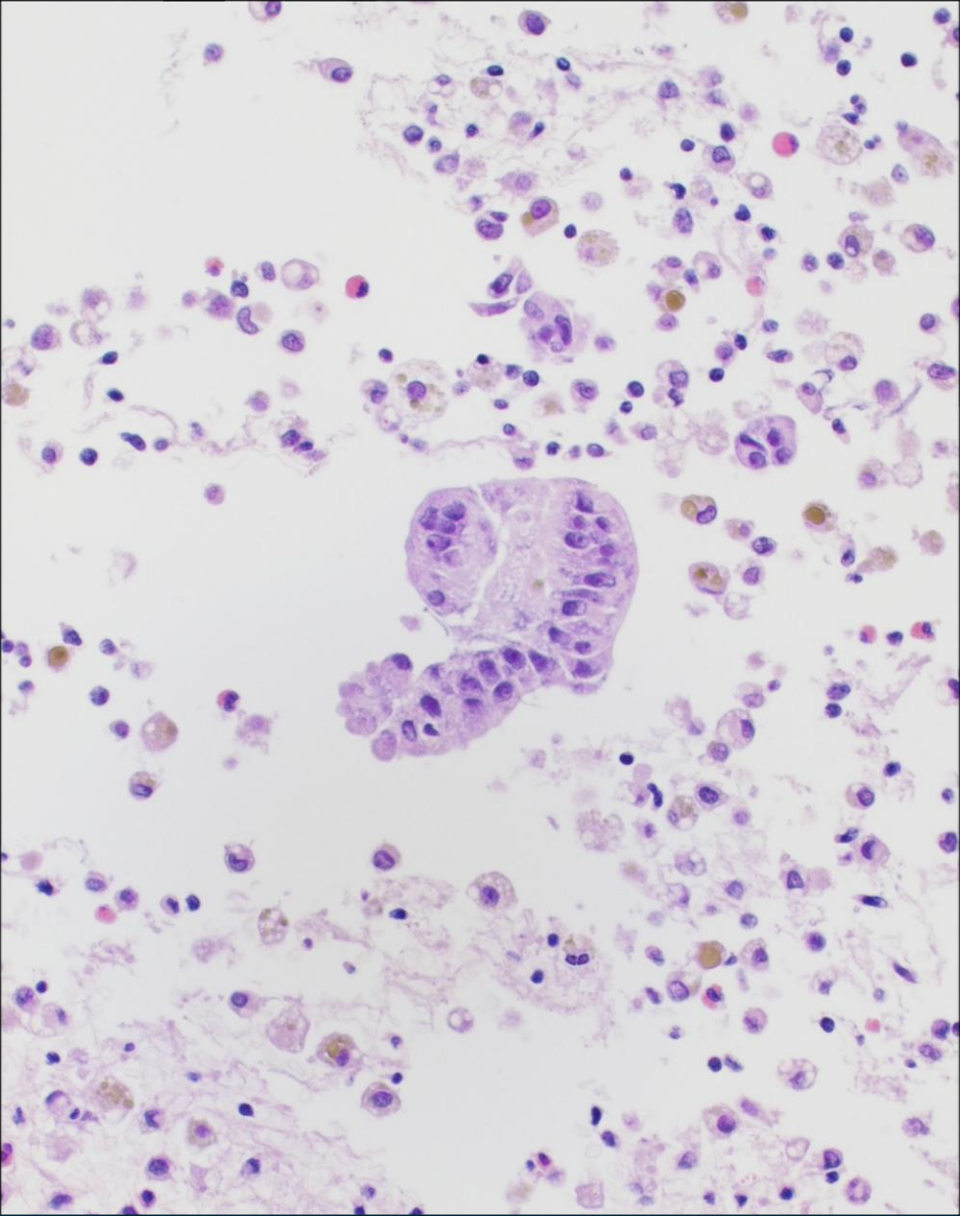


小型孤在性細胞は
導管腺癌？
リンパ球？

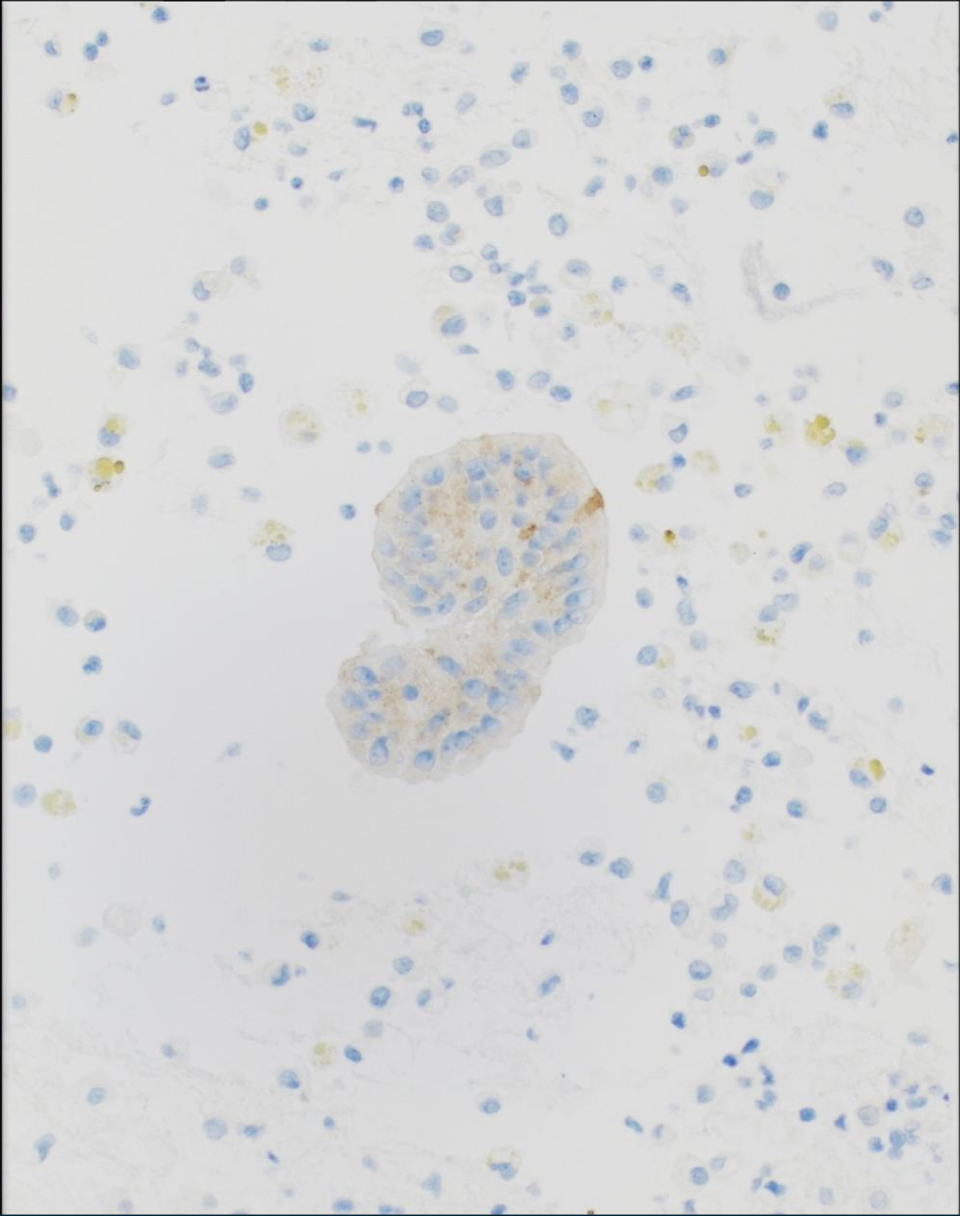


追加検索のため
嚢胞液の残検体で
セルブロック標本を
作製



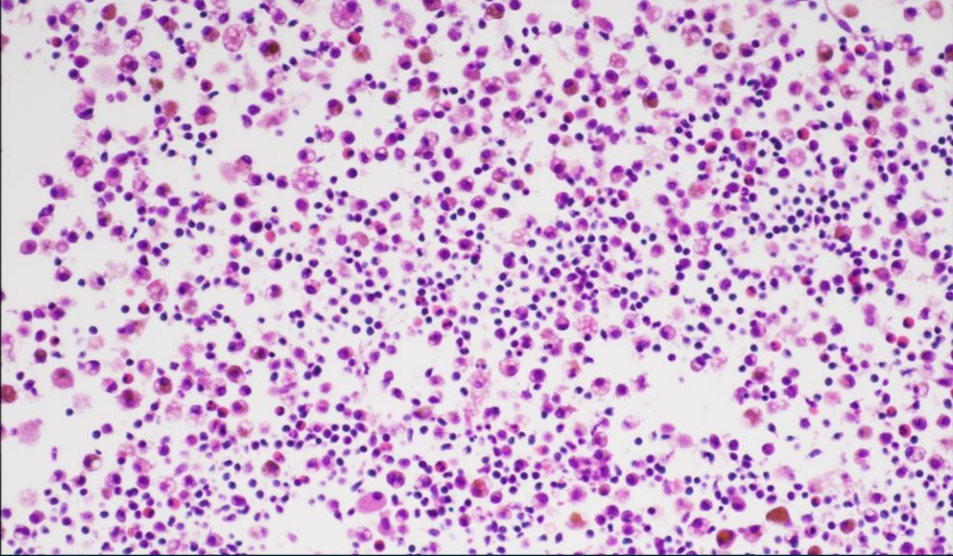


HE

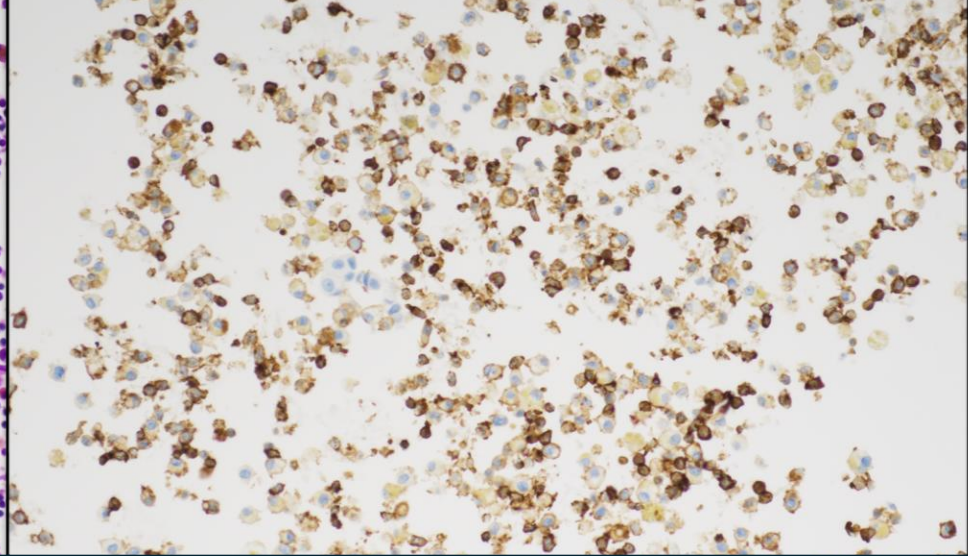


PSA (陽性)

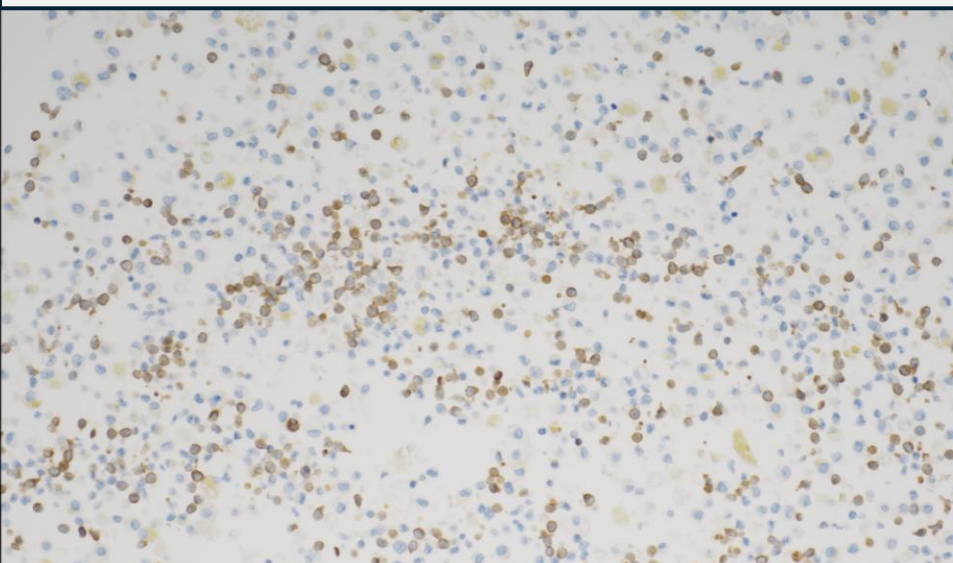
嚢胞内容液より作製したセルブロック標本 (×20)



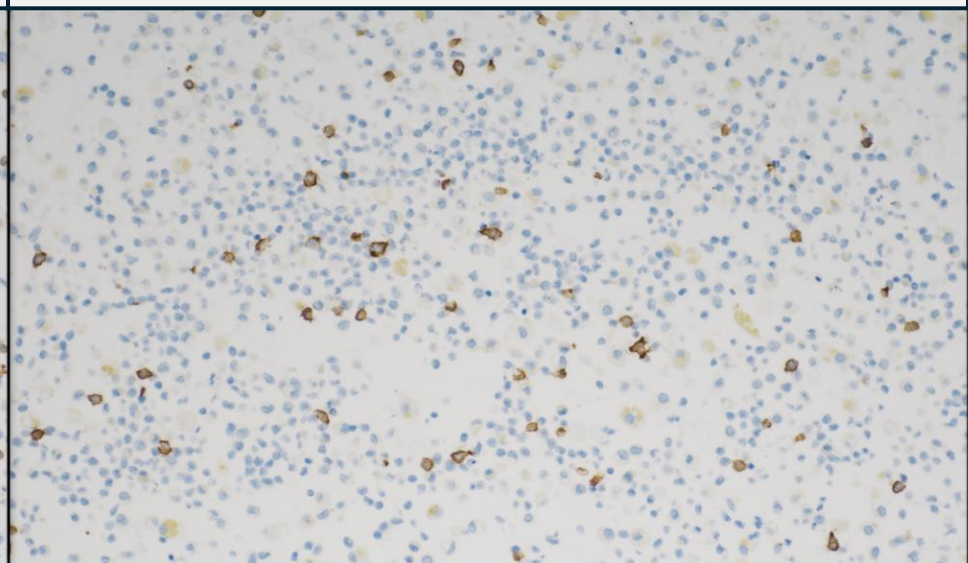
HE



CD45 (陽性)

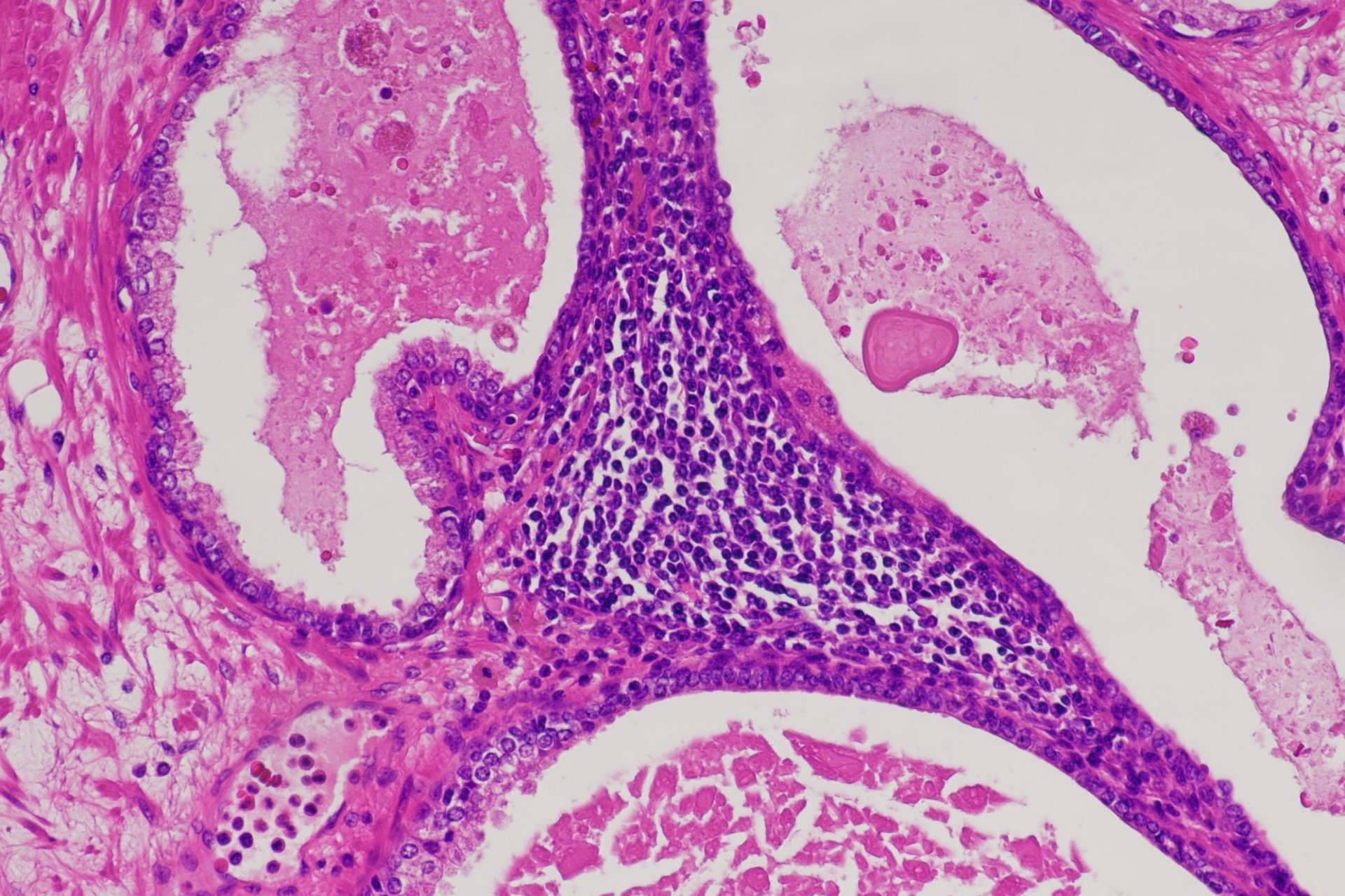


CD3 (一部陽性)



CD20 (一部陽性)

嚢胞内溶液のセルブロック検体 (×20)



前立腺内でみられたリンパ球集簇（参考症例）

まとめ

- 前立腺導管腺癌の症例を経験した。
- 稀な疾患ではあるが、画像所見と併せて鏡検することで鑑別に挙げる事が可能である。
- 本症例では異型を伴うリンパ球が細胞診検体で多数みられ、組織診検体では極少数しか見られなかった。セルブロック標本による追加検索とIL-2測定により、悪性リンパ腫は否定的と考えた。